

熊谷頼佳

医療法人社団京浜会 京浜病院・新京浜病院院長

その後の人生を 変える一言

くまがい・よりよし
1952年、東京都生まれ。77年、慶應義塾大学医学部卒業後、東京大学医学部脳神経外科学教室入局。その後、東京警察病院、都立荏原病院、自衛隊中央病院などを経て、84年、京浜病院勤務。85年、新京浜病院院長就任。92年、京浜病院院長就任。2000年、医療法人社団京浜会設立、常務理事に就任。専門は脳神経外科



→「高倉先生からは「泰然自若」を学びました」と話す熊谷頼佳院長



←熊谷先生の結婚の時には高倉先生夫婦が仲人を務めた(右から高倉先生、熊谷先生)

撮影=下山展弘

高 倉公朋先生との出会いは1977年、私が慶應義塾大学医学部を卒業してすぐの頃でした。

当時私は脳神経外科の道に進もうと慶應大学の外科学教室への入局を決めていました。しかし、オリエンテーションで先輩から「これからは首から下だけ働け。頭を使う必要はない」と宣告されたことで「外科ってそんなものか」と疑問が生まれ、そこで1週間過ぎていても雰囲気が悪く、なじめずにはいられませんでした。そこで父に相談したところ、父の経営する病院にアルバイトに来ていた高倉先生を紹介してくれました。すると東大の脳外科に在籍していた高倉先生は「だったら東大にいらしたら？」と、さもなさげにおっしゃられました。あまりにも自然体であったからか私は「よろしく願います」と即答していました。振り返ってみるとこの言葉が私の人生を変える一言となりました。高倉先生との出会いがなければ、脳神経外科を諦めていたかもしれません。高倉先生の一言のおかげで私は自分の希望する分野を、より最適な環境のなかで学ぶことができました。

出会いから33年間、師事していくうえで高倉先生から学んだのは「泰然自若」の大切さです。私は高倉先生が怒ったり、慌てるなど感情を露にしているところを見たことがなく、困難な状況にある時でもなんでもないような顔をされていました。私自身は家族や職員などから「顔を見れば機嫌がわかる」と言われているほどでなかなか高倉先生のようにできませんが(笑)、少しでも見習っていきたいと思っています。